

企業名： 若築建設

レポート名： コーポレートレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

若築建設は、「内外一致 同心協力」を企業理念とし、「品質と安全」を核として海上土木を中心に事業を拡大している。企業理念については、6 ページに詳しい記載があり、建設産業として人々や社会との繋がりを大切にしている点が見てとれる。財務・非財務ハイライトでは、2017 年度から 2020 年度のデータが並んでおり、近年の若築建設に関する財務情報などがわかりやすい形でまとめられている。9 ページには、収益力の強化を図るという方針の中期経営計画に関する内容に加え、昨今の建設業界全体の課題を挙げる他、新型コロナウイルス蔓延などの時代の変化に柔軟に対応し、すべてのステークホルダーの期待に応えることを目標として掲げていることなどが書かれている。このように基本方針が示された上で、事業基盤の強化や ESG 経営の推進といった基本戦略に続き、営業利益、ROE、配当性向などの数値目標が記されている。現状、課題、方針、戦略、具体的な目標が順に示されているため、この会社が目指す姿についての因果関係がわかりやすい。11 ページからは、社長と若手社員が、未来へのビジョンや女性社員の活躍推進、若い社員の意見の重要性、働き方改革について語っている。実際に働く社員の声をこのような形で投資家を含め社会に伝えることで、若手社員の考えはもちろん、経営者の生の声に触れることができる。

では、若築建設が目指す姿の実現に大切な、事業基盤の強化と ESG 経営の推進について、コーポレートレポートでどの程度触れられているか確認する。

【事業基盤の強化について】

顧客ニーズに応えられる企画・提案力の強化、生産性の向上、人的資源の充実、財務体質の強化が具体的な戦略である。

1 点目についてはレポートの中で詳しくセクションが設けられているわけではないが、21 ページから技術開発関連、エンジニアリング力については詳しく書いてある。若築建設の高い技術を紹介することで、間接的にはあるが、読み手に、顧客ニーズに応えることができる旨を訴えかけているのかもしれない。

次に、生産性の向上については 17、18 ページで詳しい説明がある。現場で新技術に対応する際の支援や、現場で発生する書類作成作業の効率化を図るため創設された「現場支援室」の業務に関する内容が大半を占め、その後 BIM/CIM（建設作業の各段階において 3 次元モデルを有効活用するためのもの）に関して、その活用工事の実績や今後についての説明が続く。

3 点目の戦略である人的資源の充実については、19、20 ページに働き方改革についての

説明とともに載っている。奨学金制度や社員教育、健康増進や労働資源の説明が中心であり、求める人材についての記載などは見られない。最後に財務体質の強化についてであるが、この点について触れられた箇所を見つけることはできなかった。

【ESG 経営の推進】

環境 (E)、社会 (S)、ガバナンス (G) の3点についてである。

「環境」については、27 ページから 4 ページにわたり詳しい説明がある。まず、2016 年度から 2020 年度にかけての環境保全コストや環境保全効果といった環境会計に関するデータが今後の目標とともに載っており、次に、CO2 排出削減に貢献する取り組みが複数紹介されている。現在の建設業が地球環境に配慮すべきであるということは冒頭の社長あいさつで触れられており、若築建設の環境改善への意識、貢献はレポート全体を通して見てとれる。

2 点目の「社会」に関しては、職場環境の改善、人材育成、地域社会への貢献を主としており、職場環境と人材についての記載は前述の通りである。地域社会への貢献については 31、32 ページにおいて、全国的に地域社会との交流を通して多くの活動に取り組んでいることがうかがえる。若築建設の社会貢献は、環境改善への取り組みや防災活動が中心であり、建設会社として地域社会と関わろうとする姿勢がよくわかる。

3 点目の「ガバナンス」については、ガバナンスの強化、IR の強化などが主な戦略であると書いてあり、35 ページからコーポレート・ガバナンス体制が紹介されている。ただ、それらを今後どのように強化していくのかについての説明は見つけられなかった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

海洋土木に強く、埋立、防波堤や海底トンネルなど港湾事業で多くの実績を残しており、羽田空港や関西空港などの国家的プロジェクトでは中心的な施工会社として独自の技術力を発揮した。また、風力や太陽光など再生可能エネルギー施設の建設実績があり、民間企業の工事は設計段階から協力するなどしている。したがって、幅広く様々なものの開発に寄与してきた若築建設には独自のノウハウと高い技術力があることがわかる。加えて、新型コロナウイルスの感染が拡大するという非常事態の中でも、現場作業は全て継続して行っていた。これは、長年の経験と高い技術という固い基盤があったからこそである。

現場支援室が BIM/CIM を強化していることや、働き方改革を推進していることもうかがえる。特に、社員ひとりひとりが独創的な発想を持ち、やりがいを感じられる職場を作るために職場環境の整備に力を入れていることはよくわかる。

さらに、経営理念に含まれる「品質と安全」については、レポートのなかで頻繁にその説明がなされ、41 ページにはどのように品質確保をするかについて書かれており、37 ページには安全マネジメントシステム、リスクアセスメントの実施に関する詳しい記載がある。建設会社として、従業員の安全を重視しようとする姿勢がうかがえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

独自の技術については、21 ページから 26 ページにかけて紹介されており、これからも同社の高い技術力が発揮され、社会に新たな価値を生み出すことができると考えられる。羽田空港の施工など、数々の国家的プロジェクトに関わった経験から、国内外の多くの人からの信頼を得ており、これからもそのノウハウと技術を活かして様々なプロジェクトに関わっていこう。

会社一丸となって働き方改革を推進する同社は、2021 年 4 月に現場支援室を創設し、現場の生産性向上や職場環境の改善に取り組んでいる。企業にとって、社員というのは最大の経営資源であり、持続的に成長していくためには優秀な人材を確保することが大切である。昨今、労働者がより働きやすい会社を求めているという背景を考慮すると、このような取り組みは将来的にも同社の競争優位性を支えるものになると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

同社では、サステナビリティの追求という基本方針のための戦略の一つとして、人材資源の充実を挙げている。具体的には、社員のワークライフバランスを向上させるために健康サポートや休業制度などを導入している。社員に対しては、階層別に必要スキルを明示して部門別研修を行うほか、公的資格取得奨励を実施することで高い技術を身につけるモチベーションを向上させている。さらに、働きたい部署を会社に申告できるため、一人ひとりが働きがいのある環境をつくっている。また、若手社員は、『ただ仕事を任されるわけではなく、「思うようにやってみなさい」と仕事を任される』ため、主体的に行動することができる。

これらを考慮して考えると、同社で人的資本の価値向上を達成することはできると考えられる。社員にとって、自分が意欲的に働き続けられる仕事をすることはとても重要なことである。よって、働きたい部署を会社に申告し、その部署で手厚い研修を受けることができれば、自らの能力、適正に応じて働くことができるため、スキルアップが見込める。さらに、技術士や一級建築士などの資格取得のための教育プログラムがあることも魅力的である。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

このレポートは、同社の非財務上の価値についてはよく理解できるものであった。社会貢献や地域との関わりなど非財務的な企業の価値は、長期志向の投資家など企業の全体像を求めている人たちにとって大切であるため、それらについて詳しく述べられていた点は良いと思った。さらに、前半部分に、短期実績、中期計画、方針が示されているため、時間軸で企業を評価することができるものになっている。しかし、いくつか改善余地があったため、以下で説明していく。

【形式について】

10 ページには、同社の中期経営計画の基本方針、基本戦略、目標が載っているが、多々ある戦略を把握しやすくするために、その後のレポートは基本戦略と対応した形で進めるとより読みやすいと感じた。

【内容について】

全体を通して、やや抽象的な箇所がいくつかあった。

一点目に、企業理念の説明をやや詳細にしても良いと思った。それを経営陣が拠り所になっているということは分かったものの、その理念が従業員の行動レベルにまで落とし込んでいるものなのかについては疑問が残った。建設業は、経営陣と現場で働く社員との間や部門により環境が全く異なるだろうから、もし現場の人たちに「行動指針」のようなものがあるのならば、企業理念と並べてその説明をすることでより分かりやすくなるし、企業理念が形骸化していないことも分かると思った。

次に、基本戦略の一番はじめの「顧客ニーズに応えられる企画・提案力の強化」は、レポートの中で直接的には触れられていない。数ある戦略の中でも一番上に書いてあり、これを同社が重要視しているのであれば、詳しい説明を加えても良いと思った。たしかに、顧客ニーズの分析や将来的に考えている企画を社外の不特定多数が閲覧できるレポートの中で紹介することはリスクが伴う。しかし、どのように企画・提案力を強化していけるのかは書いてもよいのではないかと思う。同社の今後の持続的発展のためには、新たな価値創造は最重要課題であり、発展していくための道筋は投資家にとっても欲しい情報なのではないかと思う。

次に、生産性の向上のところでは、現場支援室に関する記載が大半を占めていた。レポート全体を通して同社が働き方改革に力を入れていることは理解できたものの、業務効率を改善するためには、社員の職場環境を改善すること以外にも大切なことが多々ある。具体的に、労働生産性や労働分配率、効率性に関する数値を用いて現状を分析した後、それらの数値をどのように、どのような戦略で改善していくかを書くとな納得できる説明になると思う。生産性の向上を基本戦略としているものの、それ自体をどのように実現するかの記事が少なかった。

人的資源の充実の部分では、社員に働きやすい環境を提供するための制度や、社員教育プロジェクトについて触れている。今働いている従業員の環境、能力をどう整え向上させていくかはもちろん大切な情報であるが、このレポートは社外の全てのステークホルダーに見せるものであるため、より企業理念に近づけるために将来的にどのような人材を欲しているかを書くのも良いと思った。また、女性活躍の推進や、障がいを持つ人の労働環境の整備について触れていたが、そのようなダイバーシティの取り組みが、単なる「慈善」ではなく、生産性向上やイノベーションの創出に結びつくことを語れば、よりサステナブルさが出ると思う。

また、全体を通して、将来的に企業のリスクとなるものが何なのかを説明すると分かりや

すいと感じた。基本戦略がたくさんあるため、それらの戦略は具体的にどのようなリスクに対応するものなのか、そしてそれらをどのようにマネジメントするかをひとつひとつ書いていけば、同社の持続的な成長をアピールできると思った。また、時間の経過や将来的な技術発展により環境が変化した場合にどのように対応していくかを具体的に示すとともに、それらのリスクを短期中期長期に分けて整理すれば、リスクマネジメントができている感じがすると思う。